

速報第1号

各関係機関団体の長 殿

福岡県病虫害防除所筑後支所長

平成22年度病虫害発生予察速報第1号について

このことについて、病虫害発生予察速報第1号を発表したので送付します。

イグサ

1 病虫害名 イグサシンムシガ

2 速報の内容

発生時期 : 平年より早く、前年よりやや早い  
発生量 : 平年・前年より少ない

3 発生状況

- (1) 4月9日に実施した現地ほ場における越冬後被害調査の結果、被害株率1.2%(平年3.0%、前年3.7%)、被害莖率0.02%(平年0.06%、前年0.07%)であった(別紙「第1表 イグサシンムシガ越冬後被害調査結果」参照)。
- (2) 4月9日に大川市、柳川市で越冬世代成虫の初発生が認められ、大川市中木室のほ場での払い出し調査の結果、発蛾最盛日は4月12日頃(過去7カ年平均4月22日、前年4月16日)であったと考えられる(別紙「図1 イグサシンムシガ越冬世代成虫払い出し頭数の推移」参照)。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 越冬世代幼虫による被害状況(第1表)及び成虫の発生状況は、ほ場毎に差が見られることから、ほ場での成虫の発蛾最盛日を見極め適期防除に努める。
- (2) 第一世代幼虫の防除適期は、越冬世代成虫の発蛾最盛日の約1週間後とその1週間後である。本田での第一世代幼虫の防除が重要であるため、この2回の防除を徹底する。
- (3) 地域や育苗方法等によるほ場間差が大きいので、ほ場での発生状況を観察して防除時期を判断する。
- (4) 農薬散布の際は、使用基準を遵守する。防除薬剤については、「平成22年度(2010)病虫害・雑草防除の手引き」を参照する。(ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/tebiki/pe-ji/igusa/igusa-mokuji.html>)  
薬剤の使用にあたっては農薬のラベルに記載されている注意事項を確認し、散布時はドリフトが無いよう細心の注意を払うとともに、止水期間を遵守すること。

第1表 イグサシムシガ越冬後被害調査結果

調査日	調査場所	調査株数	調査茎数 (本)	50株当たり被害		被害株率 (%)	被害茎率 (%)	在虫茎数 (本)	在虫茎率 (%)
				株数 (株)	茎数 (本)				
4月9日	柳川市久々原	50	2,150	1	1	2.0	0.05	0	0
	柳川市三橋町磯島	50	3,410	2	2	4.0	0.06	0	0
	大川市中木室	50	2,470	0	0	0	0	0	0
	大川市下木佐木	50	2,715	0	0	0	0	0	0
	大木町高橋	50	2,710	0	0	0	0	0	0
本年						1.2	0.02	0	0
前年						3.7	0.07	0	0
平年						3.0	0.06	0.2	0.0

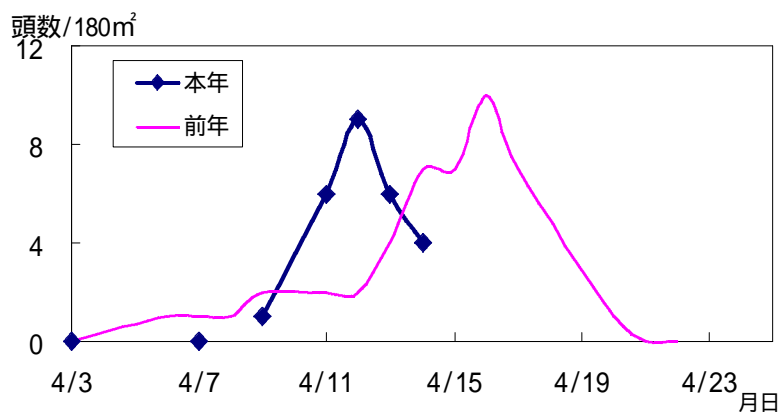


図1 イグサシムシガ越冬世代成虫払い出し頭数の推移